

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500780		
法人名	医療法人 橋口整形外科医院		
事業所名	グループホーム 平の庄(菅番館)		
所在地	大村市宮小路1丁目291番地3		
自己評価作成日	令和2年2月9日	評価結果確定日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&ijgyosyoCd=4270500780-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム平の庄は、平成16年開設で、16年目になります。国道34号線沿いの住宅地にあり、ご家族の訪問にも便利なところ。目の前に小学校があるため、朝は子供たちの声が聞こえます。敷地の周りには地域の方々に無料で貸し出している畑が広がっています。敷地内に入っていきとれんや梅、桜の木などがあり、緑に囲まれ芝生の庭もあります。天気の良い日はベンチに座ってみんなでおやつを食べて、歌をうたったりしてのんびり過ごしています。施設は平屋で、2ユニットがガキ型につながっていて、中央の共有スペースでは両ユニット一緒に体操やレクリエーションを行っています。玄関から入ると広い空間はとても気持ち良く、共有スペースの窓を大きくとっているため、日差しが差し込む光でとても明るい雰囲気のある施設です。「その人らしく、ゆったり、ゆったり」を理念として職員一同日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設内は、2つのユニットが真ん中の共有スペースを挟んで、つながっており、施設内を入居者が散歩したり、共有スペースで入居者が一緒にレクリエーションを楽しんだりすることができている。施設全体が、ゆったりと時間が流れている雰囲気であり、「その人らしく、ゆったり、ゆったり」という理念は職員をはじめ入居者へ浸透していることがよく分かった。また、敷地内の畑で職員が育てた野菜を、料理に使ったり、歯科医と義歯について検討をしたり、保湿ジェルを使った口腔ケアをするなどして、できるだけ食事を楽しんでもらえるような工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしくゆっくりゆったりと」を玄関に掲示し、管理者と職員は、理念を共有し、何を大切に入居者様に向き合うか日々の中で話し合いや確認を行いながら理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は、「今まで一生懸命頑張ってきたので、ゆっくりと過ごしてもらい」という思いをもとに、設立当初に作成されている。職員も常日頃から、理念を会話の中で話しており、その結果職員が入居者に、朝ご飯に行きましょうと言った際、「ゆっくりゆったりね」という返事が返ってきたとのことで、入居者にも理念が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の回覧板の回覧や施設内の畑を無料で提供し、気軽に声をかけ合ったりして、地元の人々と交流することに努めている。	施設内の畑を、地域住民に無料で提供しており、野菜だけでなく、花を植えてもらっていることで、入居者の散歩の楽しみにもなっている。開設当初は、施設の行事に地域からの参加があったが、最近は日中働いている家庭が多くなったり、地域住民が高齢となり参加が難しくなったりして参加はないとのことである。今後自治会長が交代をするため、働きかけはしていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議での場での提供をしているが、地域の人々に向けて活かできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の場では、入居者様やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見や提案などを引き出すことがなかなか出来ていない。	運営推進会議には、地域住民、民生委員、公民館長、元看護師、大村市職員が参加をして、入居者の現況、活動状況などを施設側から報告をしている。	運営推進会議には、家族の参加がなく、施設側も家族に参加を呼び掛けたいとのことである。施設の状況などを知るいい機会でもあるため、家族の参加を促すことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議への参加、メールや電話での連絡が主になっている。連絡や報告が主で考え方や実態を知ってもらうなどの協力関係を積極的に行いきれていない。	大村市からは、メールや文書で情報が入り、分からないことがあると相談を直接している。最近では、職員の資格の要件で相談をしたことがあったとのことである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜21時～朝9時まで施錠しているが、日中は開放している。身体拘束に関しては、実態を把握しながら禁止の対象となる具体的な行為と照らし合いながらケアに努めている。	危険から回避するために、夜間のみセンサーをつけている人や、呼び鈴を使用している人はいる。使用の際には、必ず、家族へ同意をとっている。他のグループホームの運営推進会議に出席した際に出た身体拘束に関しての事例を、カンファレンスなどの際に、職員へ伝えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者の虐待防止関連法について学び、遵守に向けた取り組みや未然防止の取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ必要と考えられる方がいないため、活用できるような話し合いを設けたことがない。また、これらの制度について利用者、家族等に周知を図るところまでは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除したりする場合は、時間を確保し、契約内容の説明を丁寧に行うように努めている。入居者様の立場に立ち、将来のことを含めて入居後起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて説明し、同意を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状態報告を行ったり、電話での報告も行うようにしている。ケアプランの報告では時間を確保してご家族の想いを聴くように努めている。	常日頃から、入居者やご家族の意見を聞くようにしており、ご家族とはケアプランの説明で1時間程度時間をかけて、意見を聞く機会を設けている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回第2土曜日にカンファレンスを行い、情報共有や職員の意見等を聞く場を設けて話を聞くように努めている。	何かあれば直接施設長に相談ができ、職員からも施設長には相談しやすいとの話であった。子育て中の職員は、日勤のみの勤務に変更ができるようにしており、各個人に合わせた働き方ができるようにしている。行事の内容などで、職員からの意見を取り入れたことはあるが、ケアの内容で、あまりにも職員中心の介護になっている場合には、慎重に検討をして取り入れられないこともあるとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件を設け、処遇改善加算の活用や、運営者は頻繁に現場に来るなどして、施設長からの報告や現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力や成果について把握し、声をかけるなどの対応をするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回第2土曜日にカンファレンス時に研修を年間計画の中で行うように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、事例発表会などを聞いて、同業者との関わりを持つように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を行い、家族やご本人からも話を聴くよう努めている。情報収集に関してはご本人の生活歴や趣味なども把握することで、安定した生活サイクルを送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やケアプランの作成時に時間を確保し、不安や困っていることの核心について把握していく過程で、しっかりと思いを受け止め、安心してもらうことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話に耳を傾けて、他のサービス利用も含めて選択出来るような説明に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態に合わせてケアを調整するように努めている。本人の生活歴を理解し話を傾けたり一緒に話をしたり環境を作ることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「施設に預けたから」という気持ちにならないようにご家族がご本人の支援をいつでも出来るような雰囲気や環境を作ることに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問されて来られる方は一緒に過ごせるように場を作るようにしている。ご家族に相談し馴染の美容室や今まで信仰してきた宗教の方の訪問など家と同じように出来るように支援している。	母体が医療法人ではあるが、主治医は入居前から引き継いでも可能であり、病院受診が難しくなった場合には、往診の打診もしている。また、馴染みの美容室をそのまま利用している入居者もあり、美容室や病院への受診は家族へ同行をお願いしている。施設としては、入居者には今後も、入居前と同じような馴染みの関係を継続してもらいたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく食卓にて過ごしていただき入居者様同士会話が出来るように努めたり、トラブルがある場合は食卓の定位置を変えたりなど共同生活を楽しく過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去されてもお見舞いやご家族に連絡をとり様子を伺ったりしている。もし亡くなられた場合はお葬式や初盆に伺い家族の様子を気にかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなど、を理解するためのコミュニケーションに努め、伝えきれない方でも一緒に生活することにより表情などを観察し困りごとなどを見つけるように努めている。	職員は入居者との会話の中で、日常の場面一つ一つについてどんな風に過ごしたいか、丁寧に意向の確認をしている。意向の確認が困難な場合もご家族に意向の確認を行い、本人本位の支援を検討している。支援の前には入居者に声掛けし同意を得ることで、入居者が自身の生活について一緒に考える習慣づくりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より自宅、入院施設等を訪問し、家族、利用していたサービスと連携し、一定の用紙に記入、把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のカルテ、日誌、日報などに記録することで一人ひとりの心身状態を把握し残存機能を失わないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を一緒に過ごすことによりご本人の困りごとを見つけたり、家族の訪問時にはコミュニケーションを取り要望を確認したり、主治医の指示など現状に即した介護計画作成に努めている。	入居時にバックグラウンド(大切にしていること)、既往歴、家族構成など入居者の背景を確認している。最初に作成した介護計画は施設の生活に慣れてきた一ヶ月後に見直し、その後は3ヶ月ごとにモニタリング実施、介護計画の見直しをしている。介護計画には入居者が出来ること出来ないことを箇条書きにして明確化し、サービス内容の具体化につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個人カルテに記入、日報・日誌などの記録、申し送りノートを活用し職員間での情報共有に努め実践し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物、散歩などその時々生まれるニーズに対しご家族に相談しながらなるべく対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのお店やご近所付き合い、夏祭りへご家族様と参加するなど協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択はご本人・ご家族様にお願いしている。今までのかかりつけ医をそのまま引き継いでお願いしている場合もあり。また、夜間帯や休日に適切な医療を受けられるように、ご本人やご家族様の受診の負担の軽減などの提案も行うようにしている。	かかりつけ医はご家族と入居者の意向により自由に選択できる。夜間や休日に適切な医療を受けられるように緊急時に連絡して指示を仰ぐ主治医を決めたり、ご家族の通院の負担軽減のため往診を提案したりしている。現在は内科を中心として各入居者のかかりつけ医5名が往診に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日情報や気づきを記入し医療連携の医師・看護師へFAXして情報提供している。また日誌や日報の確認を1週間に1度はしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する場合は介護サマリーを提供したり同行してスムーズに入院できるように努めている。退院する場合は看護サマリーやご家族様の情報や場合によってはご家族様の同意のもと医師からの説明に同席させていただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針について説明し、同意の有無を共有するように努めている。また主治医から説明もいただきその都度ご家族様と話し合いながら支援に取り組んでいる。	入居時にご家族へ看取りについての説明を行い、看取りの希望の有無の同意書をとっている。看取りの検討時期には主治医が「病状説明書」の作成とご家族への説明を行い、施設が終末期ケアや費用算定の同意書、看取り介護の説明書によって改めて看取りの具体的な意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急時対応が出来るように努めている。管理者、看護師へ報告し主治医の指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防訓練を実施している。入居者様、ご家族様にも参加してもらい実施。またチェック表を作成し日々点検に努めている。	火災避難訓練は年2回夜間想定で実施し、自然災害の避難訓練は今年1回実施している。施設の自動通報装置の連絡先に日頃から交流がある地域住民を登録しており、有事の際に備え地域との連携を図っている。立地環境として浸水が想定されるので避難先を同法人の橋口整形外科医院としている。備蓄は飲料水とオムツを確保している。	消防計画と自然災害マニュアルは作成されているが、防災計画の作成が確認できなかったため、今後の自然災害に備え、防災計画を作成することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な挨拶や日常での会話など一人ひとりに寄り添った対応をするように努めている。	職員が声をかける際は入居者に寄り添った態度となじみのある言葉づかいを心がけている。不適切と思われる対応がある場合は施設長がその場で職員へ声を掛ける等、迅速に対応している。個人情報の取扱いについての同意書は、契約書と一緒に事務所で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしたいですか？」などご本人が希望する言動などを考慮した声掛けをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で休みたい方、お手伝いをしたい方、テレビが観たい方等見守りが出来る範囲で一人ひとりが好きなように過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に好きな洋服を持ってきていただいている。また利用者様に合った洋服をご家族様に相談の上購入することもある。入浴準備、洋服の入れ替えにも努めている。月1回の訪問美容の利用、馴染みの美容室への支援も行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はご利用者様と一緒に食事を楽しむことが出来るようにしている。持ちやすいスプーン・箸・器の使用なども検討しながら自分で食事が出来るよう支援・工夫をしている。	職員が献立を作成、地域の店で食材調達をしており、調理も勤務に合わせて交代で行っている。施設の畑では年間10種類以上の野菜を育て、旬の野菜をメニューに取り入れている。食器や食事形態の工夫の他、口腔ケアで口のマッサージや口の清掃、歯医者で義歯の検討をするなど、利用者が自分の力で食べられるよう様々な工夫をしている。自分の唾液が気管に入って、食事が困難だった入居者が、雑炊や刻み食へ向上した事例がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に飲食の摂取量を記入している。摂取量が少ない時はご利用者様の好みの飲み物・食べ物に代替えするなどして1日に必要な摂取量を確保することに努めている。また栄養ドリンクやプロテインなどの補食も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し夜間のみ義歯の洗浄を行う。自分で歯磨きが行えない方、不十分な方は最終ケアを職員が行っている。口腔用ティッシュ、スポンジの使用や歯間ブラシなども使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄を行い、排泄の失敗回数を少しでも減らせるように一人ひとりの排泄状況を把握し定時誘導を行い不快な思いをしないように支援している。布パンツに変更したりして排泄の自立支援をこころがけている。	日中はトイレで座っての排泄支援をしたり、日中のパッドや布パンツ等の使用形態を入居者毎に常に検討して自立支援を心がけている。精神的ケアの観点から、失禁の不快な経験を減らすことを重視しており、排泄記録から排泄状況を把握し、定時誘導に活かすことで入居者の排泄の失敗が減った事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為、起床時にオリゴ糖入り牛乳を提供。食物繊維の摂取に朝食時の主食にマンナンを投入している。便秘の方は主治医の指示のもと便秘薬の使用・調整をして便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に配慮し、本人の体調や状態を確認し行っている。特殊浴槽を使用し安心して楽しんで頂けるように支援している。	日曜以外を入浴日とし、基本的に週3回午後からの入浴支援を行っている。2つの浴室のうち1つに特殊浴槽を導入しており、体の強張りや怪我等によって湯船に浸かるのが困難だった入居者が湯船に入れるようになっている。希望する場合はシャンプー等の持ち込みをすることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して夜良眠していただけるように午前中予防体操やレクリエーションに参加していただいている。1時間程度の休息も本人の希望により行う。温度・湿度の管理も行い環境も整えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳と受診報告書を利用し薬の把握に努めている。なるべく同じ薬局を利用し薬の一包化、名前や日付の印字をお願いしている。疑問等は薬剤師に質問している。服薬ミスがないように1週間毎の薬ボックスの利用と日付、名前の確認を行いミス防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等を一人ひとりの能力に合わせ声掛けし生活での役割を持って頂いている。また音楽鑑賞やゲームを通して他入居者様との交流を増やし充実した日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と安心して外出できるように支援している。外出が少ない方はホーム周辺や庭を散歩し季節を感じ気分転換できるように努めている。	天気が良い日は施設周辺を散歩したり、暖かい日は外のベンチでおやつにしたり、花見の時期には施設に植えた桜のもとで食事をしたりと、遠出が難しい入居者が多い中、日常で季節を感じる外出支援の工夫をしている。遠出の外出や外泊は基本的にご家族が対応しており、その際はご家族と連絡をとり連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の所持分については、おこずかいとして施設が管理している。その中から、お買い物できる機会をつくりスタッフ又はご家族の付き添いのもと購入する機会をなるべく作るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人からの手紙は職員が読むようにしている。家族から電話がかかってきた時には取り次ぐ。話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花を飾ったり、季節感を感じるような飾り付けをしている。	壹番館、貳番館共通の共用空間であるホールは広々としており、2方向の窓からの自然光によって明るい雰囲気となっている。小上がりの畳の間があり入居者が休憩で横になるなどリラックスする場となっている。床の間には職員が生けた花が飾ってあり季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共有スペースがあるため、気の合う入居者様同士でソファまたは椅子に座ってもらうようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様に使い慣れた物を持ってきていただいている。写真を飾ったり、好きな物を飾ったりしている。	居室にはタンスやテーブルなど使い慣れたものを持ち込むことができ、趣味の手芸作品や写真、習字などで入居者のその人らしさが感じられる。各居室に温度湿度計を置き、職員が毎朝清掃を行い、居心地の良い居室を保つよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どこに何があるかわかるように、居室に表札、入浴・トイレの場所に標識をつけている。自室のベッドには手すりをつけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500780		
法人名	医療法人 橋口整形外科医院		
事業所名	グループホーム 平の庄(弐番館)		
所在地	大村市宮小路1丁目291番地3		
自己評価作成日	令和2年2月9日	評価結果確定日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270500780-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	令和2年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム平の庄は、平成16年開設で、16年目になります。国道34号線沿いの住宅地にあり、ご家族の訪問にも便利なところです。目の前に小学校があるため、朝は子供たちの声が聞こえます。敷地の周りには地域の方々に無料で貸し出している畑が広がっています。敷地内に入っていきとれんや梅、桜の木などがあり、緑に囲まれ芝生の庭もあります。天気の良い日はベンチに座ってみんなでおやつを食べて、歌をうたったりしてのんびり過ごしています。施設は平屋で、2ユニットがカギ型につながっていて、中央の共有スペースでは両ユニット一緒に体操やレクリエーションを行っています。玄関から入ると広い空間はとても気持ち良く、共有スペースの窓を大きくとっているため、日差しが差し込む光がとても明るい雰囲気のある施設です。「その人らしく、ゆったり、ゆったり」を理念として職員一同日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしくゆっくりゆったりと」を玄関に掲示し、管理者と職員は、理念を共有し、何を大切に入居者様に向き合うか日々の中で話し合いや確認を行いながら理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の回覧板の回覧や施設内の畑を無料で提供し、気軽に声をかけ合ったりして、地元の人々と交流することに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議での場での提供をしているが、地域の人々に向けて活かしてきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の場では、入居者様やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見や提案などを引き出すことがなかなか出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議への参加、メールや電話での連絡が主になっている。連絡や報告が主で考え方や実態を知ってもらうなどの協力関係を積極的に行いきれていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜21時～朝9時まで施錠しているが、日中は開放している。身体拘束に関しては、実態を把握しながら禁止の対象となる具体的な行為と照らし合いながらケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者の虐待防止関連法について学び、遵守に向けた取り組みや未然防止の取り組みに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ必要と考えられる方がいないため、活用できるような話し合いを設けたことがない。また、これらの制度について利用者、家族等に周知を図るところまでは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除したりする場合は、時間を確保し、契約内容の説明を丁寧に行うように努めている。入居者様の立場に立ち、将来のことを含めて入居後起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて説明し、同意を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状態報告を行ったり、電話での報告も行うようにしている。ケアプランの報告では時間を確保してご家族の想いを聴くように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回第2土曜日にカンファレンスを行い、情報共有や職員の意見等を聞く場を設けて話を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件を設け、処遇改善加算の活用や、運営者は頻繁に現場に来るなどして、施設長からの報告や現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力や成果について把握し、声をかけるなどの対応をするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回第2土曜日にカンファレンス時に研修を年間計画の中で行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、事例発表会などを聞いて、同業者との関わりを持つように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を行い、家族やご本人からも話を伺うよう努めている。情報収集に関してはご本人の生活歴や趣味なども含めて伺い、安定した生活サイクルを送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やケアプランの作成時に時間を確保し、話を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話に耳を傾けて、他のサービス利用も含めて選択出来るような説明に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態に合わせてケアを調整するように努めている。本人の生活歴を理解し話に耳を傾けたり一緒に話をしたり環境を作ることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「施設に預けたから」という気持ちにならないようにご家族がご本人の支援をいつでも出来るような雰囲気や環境を作ることに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問されて来られる方は一緒に過ごせるように場を作るようにしている。ご家族に相談し馴染の美容室や今まで信仰してきた宗教の方の訪問など家と同じように出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく食卓にて過ごしていただき入居者様同士会話が出来るように努めたり、トラブルがある場合は食卓の定位置を変えたりなど共同生活を楽しく過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退去された方へはお見舞いやご家族様に様子を伺うようにしている。亡くなられた方へはお葬式に参列したり、初盆やその後の様子を気をつけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身で意思を伝えられる方は日々の関わりの中から、伝えられない方は様子観察を行いながら小さな変化に気づくよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に用紙に記入をお願いし、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子をサービス実施記録、日誌、日報に記録したりスタッフ間で気づきを口頭伝達したりしながら心身状態、生活リズムを把握するようにしている。また、出来る事はお願いしたりアプローチを工夫し力を発揮できるよう促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりを通して生活するうえで困っていることが無いかなを尋ねている。またご家族様からの話し、状態の報告、受診時の主治医の意見・指示から介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実施記録、日誌、日報、申し送りノートを用いてスタッフ間で情報共有しながら日々の援助や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ間で情報・意見交換を行いながらご本人様にとって今どうしたらいいのか、何が最善かをその都度試行錯誤しながら対応している。またご家族様の面会時には様子をお伝えしたり相談したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様のご協力を得ながらご近所付き合いや同級生との交流などを楽しむことが出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望でかかりつけ医を選択していただいている。夜間や休日に適切な医療提供が受けれる体制やご本人様やご家族様の受診の負担が軽減するような提案を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の情報や気づきを記入し連携医師・看護師にFAXにて情報提供している。1週間に1度は日誌や日報を確認していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーの提供やスタッフの同行にてスムーズに入院できるように努めている。退院の際は看護サマリーやご家族様の情報、また場合によってはご家族様同意のもと医師の説明に同席させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針について説明し同意の有無を共有している。主治医から説明もしてもらいその都度家族と話し合いながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。急変時は管理者や看護師に報告し主治医に指示を仰ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防訓練を実施している。入居者様、ご家族様にも参加してもらい実施。またチェック表を作成し日々点検に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様が笑顔になれるような言葉かけを心掛けている。言葉遣いにも日頃から気をつけ対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	よく聞こえるように耳元で本人が理解できるよう話し働きかける。本人が思いや希望を表せるように傾聴する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々で自室で過ごしたりお風呂上りに横になったりして疲れを回復できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時おしぼりで顔を拭いたりお風呂上りに着る服を上下コーディネートして選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はご入居者様と一緒に食事して楽しむようにしている。時折ご入居者様にお茶碗等を拭いていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食はお粥、軟飯、ペースト、副菜は一口大、キザミ、ペースト等その人に合った形状で提供している。またとろみを付け咽を予防して飲み込みやすくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し夜間のみ義歯の洗浄を実施している。口の中に汚れが残らないよう必要に合わせたケア用品を使用して清潔保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハビリパンツや布パンツで過ごしてもらいトイレで排泄してもらうようにしている。夜間はオムツやリハビリパンツでトイレも使用し自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為、起床時にオリゴ糖入り牛乳を提供。食物繊維の摂取に朝食時の主食にマンナンを投入している。便秘の方は主治医の指示のもと便秘薬の使用・調整をして便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽に安全に入浴していただけるように特殊浴槽を導入。シャワー浴のみでの入浴しできなかった方も浴槽でゆっくり楽しんでいただけるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して夜良眠していただけるように午前中予防体操やレクリエーションに参加していただいている。1時間程度の休息も本人の希望により行う。温度・湿度の管理も行い環境も整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳の活用や受診報告書を利用し把握に努めている。薬局をなるべく同じところをお願いし一化や名前・日付の印字をお願いしている。また疑問等はすぐに薬剤師に質問するようにしている。1週間毎の薬BOXを利用しミス防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル・茶碗を拭くなど生活の中で役割を持って頂けるよう声掛けをし出来る方をお願いしている。楽しみを持って頂けるよう歌のCDやDVDを流して音楽を聴く、歌う環境を作っている。またことわざや漢字ドリルを提供し一緒に解いたり頭の体操をしたりして楽しんで頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と相談して美容室や外食、自宅へ帰る等の外出の支援に努めている。近所の夏祭りにご家族様や職員の付き添いで参加し買い物をしたりゲームに参加したり写真を撮るなどして思い出作りにも努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の所持分については、おこずかいとして施設が管理している。その中から、お買い物できる機会をつくりスタッフ又はご家族の付き添いのもと購入する機会をなるべく作るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等が届いた際は電話をしてお話が出るように支援している。ご本人様の携帯電話を使用して曜日を決めてご家族様に電話やメールをして近況報告ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をしたり生け花を飾ったりして生活感がでるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間がある為館内を散歩したりソファで休んだりDVD視聴をしたり個々の好きなように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っているものや思い出の写真などをご家族様に持ってきていただき各々過ごしやすい空間作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や標識を設置し見た目でも分かりやすいようにしている。またスケジュール表を見ながら1日の流れに沿って生活が送れるように支援している。		